

## あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

## 報告 第4回徳島みなとまちづくり懇談会

2 月16日、小松島みなとオアシスkocoloにて、徳島みなとまちづくり懇談会を開催しました。

本懇談会は、「みなと・海・まちづくり・地域防災」等について、県内の港湾を抱える各市町と四国地方整備局、県の港湾関係者がそれぞれの立場で意見・要望・情報等の交換を行い、地域に根ざした行政を展開していく契機とするものです。

前半において、当事務所より「徳島沖GPS波浪計の設置とその活用」および「撫養港海岸の整備」、徳島県より「浅川港海岸の整備」、NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしまより「小松島みなとオアシスの活動」、四国地方整備局港湾空港部より「みなとまちづくりファンドの活用」の5つの話題提供がなされ、それらを基に後半は、市長さん、町長さんが普段から感じられている課題や、防災・地域振興の両面からの各種取り組みについて、積極的な情報提供および意見交換が行われました。

津波対策は徳島県沿岸部にとって重大なテーマであり、より一層のソフト・ハード両面からの対策が必要であること、また、陸からのルートが寸断された場合の港湾施設を利用した海からの救助や救援、各自治体のBCP(事業継続計画)策定等、今後も協力して各種要望・課題等に応えていくことを確認しました。

## 【過去の実績】

第1回 平成14年11月25日

第2回 平成16年11月16日

第3回 平成19年 2月13日



## INDEX ▶

- みなと報告/第4回徳島みなとまちづくり懇談会 ..... 1
- みなとインフォメーション/徳島飛行場と周辺整備事業 ..... 2
- なるほどみなと講座/津波シミュレーション ..... 3
- みなと通信/報告「徳島小松島港ポートセミナー」 ..... 4  
告知「徳島阿波おどり空港の供用開始」

## 徳島飛行場と周辺整備事業

### 【徳島飛行場拡張整備事業】

平成13年に工事が開始された、徳島飛行場拡張整備事業は平成21年度が最終年度となるため、最終工区のターミナル地区では年度末に複数の工事が集中し大わらわでした(右写真)。

完成したターミナルや2,500m滑走路等の施設は平成22年4月8日より供用が開始されます。

当事業により、大型ジェット機の就航が可能となる他、離発着時の安全性や災害時の緊急輸送能力が向上することとなり、経済活動活性化などの面で徳島地域への貢献が期待されます。



事業名		埋立地等の土地利用	開発面積(ha)
徳島飛行場拡張整備事業		空港施設用地 (滑走路、空港ターミナル施設用地)	40.6 (39.9)
徳島空港 周辺整備 事業	港湾環境整備事業	廃棄物最終処分場の埋立護岸	98.4 (59.8)
	空港地域整備事業	月見ヶ丘海浜公園	
	空港周辺臨海土地造成事業	徳島空港臨空用地、 下水処理施設用地など	
合計			139(99.7)

( )は埋め立て面積の内数を示します。

### 整備工程

- ・平成9年 事業採択
- ・平成10年 環境影響評価
- ・平成13年 埋立護岸工事開始
- ・平成16年 埋立(直投)開始
- ・平成17年 用地造成開始  
排水施設整備開始
- ・平成20年 舗装工事開始
- ・平成22年 供用開始

### 【徳島空港周辺整備事業】

徳島飛行場の拡張整備に併せて、広域的な都市環境の改善や空港周辺の活性化を図るために、空港周辺整備事業を徳島県が推進しています。

空港周辺整備事業では、これまでに月見ヶ丘海浜公園や廃棄物処分場、下水処理場用地等の整備が完了し、現在、産業用地(徳島空港臨空用地)の整備が進められています。



# こまぼんの なるほど! みなと講座



～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～

ほくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

## — 第20回 — 津波シミュレーション

津波シミュレーションは、ハザードマップ作成の支援や、防波堤の設置検討などを目的として実施されます。

徳島県沿岸域の各市町村では、現在津波ハザードマップがホームページ等で公表されています。今回は、その計算手法等について紹介します。

### ◆ 諸条件の設定 (施設条件、外力条件等)

○ 過去の津波被害の記録

○ 津波シミュレーション

- 東南海・南海地震が同時発生した場合
- 1854年安政南海地震

重ね合わせ

津波浸水予測図

\*最も大きな被害を抽出



今後発生が危惧される東南海・南海地震についての防災・減災対策が緊急の課題です。津波計算のプログラムは、解析のためのモデル設定に多大なコスト・労力・時間を要するとともに、各推算・計算結果は初期条件の設定によって大きく変わってきます。

ここでは平成15年に徳島県で行った津波浸水予測調査を参考に沿岸域で発生する津波の浸水予測区域を解析する際の前提条件を整理しました。

### ○ 徳島県の津波シミュレーション

想定地震	(1)東南海・南海地震が同時発生した場合(マグニチュード8.6) (2)1854年の安政南海地震(マグニチュード8.4)
初期水位	満潮位
格子間隔	最小20m格子
沿岸構造物	基本的に防潮堤や河川堤防などが、地震の揺れや液化化による被害を受けて機能しない
河川の遡上	考慮する

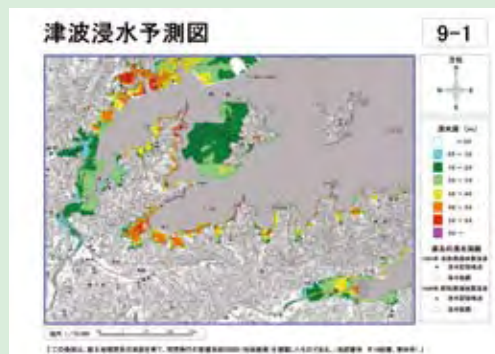
最近では防災・減災対策の市民への説明用にCG(コンピュータグラフィック)を使って、計算結果・災害地域特性等の情報を分かりやすく表現する工夫が行われています。

### ◆ 橘湾CG



(C)Geoscience.NTT DATA.RESTEC/Included(C).JAXA

### ◆ 津波浸水予測図



(県庁 HP より)

津波波源域の変更、施設の整備水準等の計算条件を多数変化させて、よりきめ細やかな防災対策や整備手順の検討、施設整備効果の評価・検証等にも利用できます。

## 報告 徳島小松島港 ポートセミナー 開催日 2/8

徳島グランヴィリオホテルにて、徳島小松島港振興協会・徳島県の主催、ジェット口徳島貿易情報センターの後援により、平成21年度 徳島小松島港ポートセミナーが開催されました。

徳島県運輸政策総局より、徳島小松島港の概要について説明した後、釜山航路を運航している3つの船社日本総代理店による定期コンテナ航路の紹介、その後、社団法人日本ロジスティクスシステム協会の北條英氏による「ロジスティクス分野における温暖化防止の取組みと今後の課題」と題した講演が行われました。

コンテナ航路の増便により、今後のさらなる港湾の利用と、船舶へのモーダルシフトによるCO2削減が期待されるところです。



## 告知 徳島阿波おどり空港の 供用開始 4/8

徳島空港の2,500m滑走路が、平成22年4月8日にオープンします。併せて、新空港ターミナルビルの供用も開始される予定です。

ターミナルビルの特徴は、ロビーを吹き抜けの開放感溢れる構造として、徳島県ならではの「文化・観光・物産」を紹介し、「観光立県・とくしま」を全国に発信します。

オープンを記念して、上海チャーター便や沖縄チャーター便が新たに予定されております。

今後、徳島県の観光交流、産業振興等において、「徳島阿波おどり空港」が新たな交流と地域振興の拠点として貢献し、全国に誇りうる「空の玄関口」となることを期待します。



徳島飛行場滑走路2,500m化の工事がこの度完了し、4月8日から新たに供用が開始される事となりましたので、ご報告させていただきます。

今回のように空港に新たな施設が完成した場合、空港の設置・運用管理者(徳島空港の場合は防衛省)は、航空機の運航に必要な情報として、完成した施設の規格等を記載した「航空路誌」と呼ばれるものを、航空会社等の関係機関に発送・周知する事が法律で義務づけられています。この「航空路誌」が有効となる日が、1~2ヶ月に1回程度で世界的に統一されており、平成22年4月8日は、8日とその有効日となっていることから、供用日が4月8日(木曜日)となりました。

4月8日からは愛称も「徳島阿波おどり空港」となり、皆様により親しまれる空港として、また、徳島県の観光、経済、地域振興の拠点として新たに出発します。

平成13年9月に現地工事に着手し、8年半の歳月を費やしましたが、地元松茂町をはじめ、関係者の皆様方のご理解とご支援により無事完成させる事ができました。改めて感謝申し上げます。

小松島港湾・空港整備事務所長 河西 博



## 出前講座の申し込み受付中!

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



## 出前講座、現場見学のお問い合わせは...

当事務所 TEL (0885)32-3357 または、

ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>

より、お問い合わせください。